みんなでチャレンジ！ 今すぐできる社会貢献 vol.12

テーマ 「リサイクルボックス」

皆さんはもうすでにトレーや雑誌新聞などの回収に協力しているのではないでしょうか？

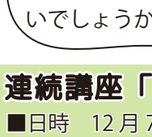
大型店やスーパーに行けば店頭にリサイクルボックスがありいつも一杯の状態です。ゴミの削減やリサイクル活動、誰もが取り組める立派な社会貢献だと思います。

消費者 ⇒ スーパーマーケット (回収) ⇒ リサイクル業者・再生企業 ⇒ スーパーマーケット (商品) ⇒ 消費者 、こんなかたちで廻っているんですね。

買物をするとほとんどの食材が白やカラフルなトレーもしくは透明のパックに入っています。燃えるゴミ袋に入れると相当がさばり大変です。私も、トレーは洗って、週１回スーパーのごみ分別袋へ！を実行しています。

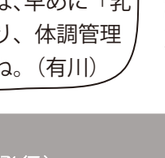
いろいろな企業が少なからず環境・社会貢献に取り組んでいるのは、地球温暖化などで自然災害が急増している事もありますね。（出牛）

ＮＰＯを応援する仕組みや情報をご紹介します



ＮＰＯ道具箱 vol.12

「クラウド・ファンディング」って何？



クラウド・ファンディングとは、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語で、インターネット上で資金調達を行うことです。具体的には、インターネット上で不特定多数の人に向けて自分の実現したい夢や活動を表明し、それに共感した人からいくらかの資金提供を受けることです。

資金提供をする側からの視点で見ると、どの程度のリターンが期待されるのかによって、大きく５つの種類に分類されるようです。

- 寄付型：リターンなし
- 購入型：金銭以外の物品や権利を購入できる
- 株式型：配当と売買益のリターンがある
- ファンド型：売上の一部が配当として分配される
- 融資型：金利のリターンがある

日本では、購入型が最も普及しているようです。

また、特徴で分類すると、地域活性化のための資金集めに特化したものや、ゲームやファッション等サブカルチャーに特化したもの、音楽やアイドルに特化したもの、スポーツ関係、飲食関係、学術関係など、実に様々なファンディングの仕組みがあるようです。

興味のある方は「クラウド・ファンディング」と検索してみてはいかがでしょうか。どの仕組みをみても、様々な課題やアイデアの見本市のような感じで見応えがありますよ。（佐藤）

※参考「クラウドファンディングカンファレンス｜CF 成功メソッド集」サイト、「クラウドファンディング総合比較」サイト

センター職員のいちおし！

スタッフが気になることやおすすめしたいことなどをご紹介します

ＴＨＥ・乳酸菌

11 月といえば、文化の日や文化祭、七五三等で賑わう一方で、冷え込みが厳しくなり、インフルエンザの予防接種に足を運ぶ人も多い季節です。

そんなこの時期にお薦めなのが乳酸菌の摂取です。ヨーグルトや乳酸菌が「免疫力を高める」「インフルエンザ予防に効く」という話を耳にした人も多いのではないでしょうか。

実際に、市販のヨーグルトや乳酸菌飲料をとることで、病原体の侵入があったときに最初に働く免疫細胞のひとつ、「ＮＫ（ナチュラルキラーの略）細胞」の働きが高まったり、感染後の重症化が抑えられたりすることが確認されているそうです。インフルエンザ防御には、早めに「乳酸菌」の補給が効果的！乳酸菌を上手に摂り、体調管理には十分気を付けて元気に過ごしたいですね。（有川）

連続講座「会計の基礎を学ぼう！」のご案内

■日時　12 月 7 日～ 2 月 8 日までの毎週水曜日
（ただし 12 月 28 日と 1 月 4 日を除く）各回とも 14 時～ 16 時
■場所　当センター　会議室 B
■内容　一般会計から NPO 会計までの基礎知識を学びます
■講師　行政書士　鈴木利右エ門 氏　　■参加費　無料
※連続講座ですので、なるべく全課程の受講をお勧めします。
問合せ・申込みは 12 月 4 日までに当センターへ

山形市市民活動支援センター利用のご案内

- 開館時間 /9 時半～ 22 時
- 休館日 / 月曜日、祝日、月曜日が祝日のときは火曜日、年末年始

★印刷と相談の方は１団体２名、２時間までの駐車券補助があります。
（霞城セントラルパーキング・山形駅東口交通センター駐車場をご利用ください。）

山形市のＮＰＯ・市民活動の情報源！
○メールマガジン（毎月１日・１５日発行）
配信希望の方は kanri@yamagata-npo.jp までご連絡ください
○月刊紙「んーぽ新聞」（毎月１５日発行）
詳しくは窓口へお問い合わせください

編集後記

気温がグッと下がり、ジワジワと冬のにおいがし始めて来ました。雨が夜更け過ぎに雪へと変わり、朝玄関を開けると真っ白になっているのが待ち遠しい今日この頃です。（花屋）

山形市市民活動支援センターだより とぴあす
発行責任者：所長　齋藤和人

山形市市民活動支援センターは、NPO 法人山形の公益活動を応援する会・アミルが指定管理者として運営しています。
山形市市民活動支援センター登録団体実数（2016 年 10 月末現在 343 団体）団体の詳細は、http://www.yamagata-npo.jp をご覧ください。

山形市市民活動支援センターだより

山形市の市民活動の情報と支援センターからのお知らせをお届けする情報紙

とぴあす

2016 年 11 月 15 日発行

特集：みんなが移動に困らないように

▼ 今から 7 年前、移動手段に困っていた大郷・明治地区の住民の手によって生み出された「スマイルグリーン号」は、今では行政区の垣根を越えた存在となりました。

みなさんは移動や交通について考えたことがありますか？
住むところによっても見解はそれぞれかもしれませんが、外出に介助が必要な方、買い物や通院に難を抱えている方、そして公共交通網の外にいる人たちなど、移動に困難を抱えている人たちは決して少なくはないものです。今号では、そういった課題に向き合っている「移動支援」について特集します。

今号の目次

◯ みんなが移動に困らないように
やまがた福祉移動サービスネットワーク
大郷明治交通サービス運営協議会
◯ センターからのお知らせ
◯ みんなでチャレンジ！
今すぐできる社会貢献 vol.12
◯ NPO 道具箱 vol.12
◯ センター職員のいちおし！

vol.30

山形市市民活動支援センター
〒990-8580
山形市城南町 1 丁目 1 － 1 霞城セントラル 22・23 階
電　話：023-647-2260　ＦＡＸ：023-647-2261
メール：center@yamagata-npo.jp

特集：みんなが移動に困らないように

私たちが普段何気なくしている移動や外出。

しかし、重い障がいを持っていて介助が必要な方や、急速な少子高齢化と人口減少により、路線バスが廃止されるなどして、買い物・通院・通学することに困難を抱えるようになった人たちがいます。

そんな中、こういった人たちを支える仕組みとして、下記のような取り組みが各地で行われています。

- **福祉有償運送**
  タクシー等の公共交通機関では、要介護者、身体障がい者等に対する十分な輸送サービスが確保できないと認められる場合に、ＮＰＯ、社会福祉法人等が、実費の範囲内であり、営利とは認められない範囲の対価によって、乗車定員 11 人未満の自家用自動車を使用して会員に対して行うドア・ツー・ドアの個別輸送サービスのことです。
- **交通空白地有償運送（旧：過疎地有償運送）**
  公共交通機関が住民に対する十分な輸送サービスを確保できないと認められる場合に、営利とは認められない範囲の対価において行う移動サービスのことです。自治会やＮＰＯ等の地元に密着した団体が登録した上で行うことができます。
- **デマンド型乗合タクシー**
  移動サービスが必要な人を自宅や指定場所から目的地まで、乗り合いタクシー方式で送迎するサービスのことです。

山形市内でもいろいろな団体がこの問題に取り組んでいますが、その背景についてお聞きしてきました。

移動困難者に寄り添い、解決策をともに考える

やまがた福祉移動サービスネットワーク
代表　齋藤 丈夫 さん　　事務局長　本間 博 さん

やまがた福祉移動サービスネットワーク（以下、移動ネット）は、移動困難な人々を支援する団体へ、団体の設立や運転者の訓練等のサポート活動をしている団体です。年齢や障がいの有無に関わらず、全ての市民が安心安全な移動ができる様になることを目的としています。

活動を始めたのは今から十数年前です。当時は、通院を手伝っている個人の方や、福祉施設で利用者と直に触れ合っている職員やヘルパーの皆さんが、福祉の活動として、介助等の専門性を活かした移動サービスの必要性を感じつつも、制度上それができないためもどかしい思いをしていたのだそうです。

法改正による変化と様々な移動支援のカタチ

その後の道路運送法改正により、非営利セクターでも実施することが認められました。その代表的なものが「福祉有償運送」です。山形市及びその隣接２市２町における、平成 27 年度の運行回数は 44,170 を数え、事業者数は山形県全体で約 40 にも上ります。福祉有償運送を行うには運転者認定講習の受講が必須で、これを県内で実施しているのが移動ネットです。

←今月6日に飯豊で開催した、施設送迎者運転勉強会の様子

そして、移動ネットでは現在「施設送迎者運転勉強会」を県内各地で開催しています。これは、福祉介護施設事業の送迎は福祉有償運送には含まれず、そのため講習が必須ではないという、制度上の穴を埋めようと企画したものです。表記を「講習会」ではなく「勉強会」としているのは、参加者同士でノウハウや経験などを共有し、事故防止に努めようとの思いからで、今年度はこれまでに計４回開催、約 40 の施設から 71 名が参加しました。次回は 11 月 27 日に酒田で開催の予定です。

また、山形県内では、民間主体による交通空白地有償運送の取り組みは行われておりません。一方で、デマンド型乗合タクシーの取り組みは数箇所で行われており、移動ネットは山形市内で運行している「スマイルグリーン号」にアドバイザーとして協力しています。

活動を通して感じていること

「外出が困難な人たちの課題はそれぞれだが、例えば有償運送という枠組みだけを見てみても、多様な担い手が実施できる様に含みを持たせて制度設計しているから、これに当事者の熱意・知恵・工夫があったらできることというのは必ずある。スマイルグリーン号の様に、その当事者たちが結束し、自分たちで運営しながら、自力ではどうしても苦しいところを行政にお願いします、というスタイルが、従来の考え方と決定的に違うところ。その答えや手法は、私たちではなく当事者の人たちが必ず持っている。」

そして「まちづくりと交通は切り離せないもので、そういった“この課題をなんとかしなきゃならない”という意識をそのコミュニティで共有することで、まちの未来が見えてくるのかもしれない。」
と話してくれました。

地域住民によるデマンドタクシーの運行

大郷明治交通サービス運営協議会
会長　東海林 一男 さん　　事務局長　秋葉 康雄 さん

山形市の明治地区と大郷地区の一部を走っている「スマイルグリーン号」は、公共交通網の無いこの地域で、交通弱者の足を確保すべく運行しているデマンド型乗合タクシーです。行政主体ではなく住民主体で運行しているのは山形県内でもこのスマイルグリーン号だけで、今年で７年目を迎えました。送迎以外の運営の全てを地域住民が行っています。

現在は週３日、それぞれ計９便を運行しており、停留所の数は地域住民からの要望を受けて、地区内外に 51 箇所が設定されています。

1999 年３月に路線バスが廃止となったこの地域では、住民の高齢化が進むにつれ、買い物や通院ができないといったことが大きな課題となり、先行事例の視察や住民へのニーズ調査をしながら解決策を考えていたそうです。そして、移動ネットと、福島大学の吉田樹先生に巡り会ってから順調に検討が進みました。その結果、デマンドタクシーの方法が良いのではないか、とのことで、2009 年４月から１年間の実証運行を実施し、翌年４月に週２日で本運行を始めました。

写真左:秋葉さん　写真右:東海林さん

成果と課題

成果として、運行を開始してから３年目には延べ利用者数５千人を達成、６年目には１万人を達成しました。そして今年 10 月には中山町に延伸することになり、これにより週３日の運行が可能となりました。デマンドタクシーが二つの行政区の垣根を越え、尚且つ、その運行が住民主体によるものであることは、全国的にも稀なことだそうです。

そしてスマイルグリーン号は、地域コミュニティと地元の小学校との新たなつながりも生み出しました。乗車回数券の裏面のデザインや車体の車両標示は、明治小学校の児童がデザインしたものです。小学校の社会科見学にも活用されています。

←車両標示は運行開始当時のデザインのまま、現在も走り続けています。

また、課題として、利用者の帰りの時間を合わせるのが難しいことや、冬季間の中高生の通学、他交通機関のダイヤとの組み合わせなど、運行を通して新たな課題も見えて来ているそうです。秋葉さんは次の様に話してくれました。

「ここまで来たんだから次のステップをどうするか、絶えず前向きな姿勢をしていかないと。自分たちでできるところは自分たちでやって、どうしてもできないところは行政に助けてもらい、助言をしてもらいながら、基本は使う人が使いやすいようにしていくのがこのバスだと思っている。検討は尽きないのだが、まず走らせるのが先だべ。課題は出てきたら解決していくべと。」

メッセージ

取材の最後にお二人は、

「地域の足としてのスマイルグリーン号を多くの方々に利用して頂き、より身近な“おらだ”のバスに誇りを持って、沿線の方々に親しまれて利用してもらいたい。また、今後も利用者の立場に立って、改善できるところは改善し、多くの意見に耳を傾けながら、利用者の輪を広げて行きたい。みんなで利用してスマイルグリーン号の継続を図って行きたい。」
と話してくれました。

山形市及び隣接２市２町で福祉有償運送事業を行っている団体

- ○ ＮＰＯ法人山形移動サポートセンター
- ○ （社福）愛泉会
- ○ 生活協同組合共立社
- ○ ＮＰＯ法人かみのやま福祉運送サービス
- ○ ＮＰＯ法人ハート・ルート・ドライブ
- ○ ＮＰＯ法人すみれ会
- ○ ＮＰＯ法人マーガレット移動サービス

※山形県「福祉有償運送に係る事業者情報一覧（平成 28 年８月１日現在）」より抜粋

移動や外出に困っている人たちを見つめてみると、免許自主返納者への支援制度や、民間業者の個人宅配事業なども、困難を抱えている人たちへの支援の一つなのだろうと思いました。

移動交通の課題は、地域や家庭環境により様々ですが、その解決策は色んなバリエーションがあって良いものだと思いますし、それらの中には自力で行っている取り組みがあることに勇気づけられた気がします。

この様にして、私たちの熱意、そして知恵と工夫で解決できるものは、なかなか気付かないだけで色々とあるのかもしれませんね。